

## 羅針盤



2018年6月15日(金) 第50号

＝ 6月のことば ＝

多くの人はチャンスをつかむことができない。チャンスは作業着を着ており、大変そうに見えるからだ。

(トマス・A・エジソン(1847-1931))

## 将来を見据えて、次の一步を踏み出そう

今日で前期中間考査が終了した。2年生となって最初の定期考査だったが、力は出しつくしただろうか。考査が終わり、一息つきたい気分だろう。しかし、17期生諸君の大きな目標である各自の進路実現ということを考えれば、「一息」で切り替えなければならないだろう。各自の将来を見据えて、次の一步を踏み出そう。答案が返却される前に、試験範囲を復習しておいてほしい。答案が返却されたら、また復習してほしい。地道だが、やはり学習の基本は繰り返し自分の脳に蓄積された知識にアクセスし、それを鍛えることが重要だろう。

## 黎明生の活躍続く(放送・陸上も全国大会へ)

黎明生の活躍が続いている。とても誇らしいことです。放送委員会は、高校放送コンテスト福島県大会に出場し、テレビドラマ部門優秀賞(作品名「嘘」)、テレビドキュメント部門優秀二席(作品名「あいさつ事故対策協議会」)、朗読部門優秀五席(8組田村紀瑛さん)となり、全国大会への出場を決めました。また、陸上東北大会に出場していた鈴木優伽さん(1組)も、やり投げで全国インターハイ出場を決めました。おめでとうございます。

6月	曜日	行 事 等	週末課題	朝学習
16日	土		国・数	
17日	日			
18日	月	追考査	国語提出	数学
19日	火	追考査	数Ⅱ提出	英語
20日	水	45分授業		国語
21日	木	防災避難訓練 40分授業	数B提出	総合
22日	金			数学
23日	土		国・数・英	
24日	日			
25日	月		国・英提出	数学
26日	火		数Ⅱ提出	英語
27日	水			国語
28日	木	校内合唱コンクール	数B提出	
29日	金			数学
30日	土	進研模試	数	
7月1日	日			
2日	月	PTA研修旅行(新潟大学)		数学

### ☆防災避難訓練(21日)

あの震災以降、日本各地で自然災害や大きな火災などが目立っている。真剣に取り組みたいものです。

### ☆校内合唱コンクール(28日)

考査期間で部活動が制限されていたが、合唱練習も禁止されていた。今日以降は、再び学校全体に、澁漉とした歌声が響くことだろう。文化センターに響き渡るハーモニーが楽しみです。保護者の観覧希望も受け付けています。

今月25日は「諸会費納入日」です。PTAや後援会、生徒会などの諸会費22,054円が指定された口座から引き落とされます。事前に残金を確認しておいてください。

## 「名付け」

2組 根本 美玖

「吾が輩は猫である。名前はまだ無い」私の家で飼っている猫は今、そんな感じだ。「吾が輩」ではなく「アタシ」が似合うが。二匹いる内の先住猫の名前はリム（♀）、つい2週間ほど前に飼い始めた子猫はまだ名前がない。一応、私が名付ける予定だが、まだ決まらない。そのため、「あのチビ」や「ちっこいの」「黒いの」と呼んでおり、家族に早く決めろと急かされている。

ペットの名付けは2パターンある。一つ目は、物の名前や音重視である。例えば、チョコやマロンなど見た目や可愛さ（音の響き）から取る時。タマや太郎、次郎などの意味はないがスタンダードなもの。これらは、確かに失敗はしないが、私は何となく味っ気がないため、そうは決めたくない。二つ目は、人間のように意味を込めたもの。これらは比較的、人間の名前に近い。それは名付けられたものを、社会の一員として表すものだと思う。一つ目のパターンを否定はしない（リムという名前は「アイスクリーム」から取ったからだ。可愛らしくて私は好きだ）。むしろ、そちらの方がペットとしては良いのだが、安易に名付けるには抵抗がある。例えば、死ぬほどコココーラが好きでも、自分の息子・娘には付けないだろう。だから、名付けがいかに大変かわかる。好きなものの名前を付けられないからだ。しかし、今の社会では人間の社会でキラキラ



ネームが流行っている。私が驚いたのは「黄熊(プー)」だった。羽生選手のファンなのか何なのか。その人物は否定しないが、想像してほしい。会社や学校の面接で、そう名前を呼ばれる時の心情を。人の好きだろ、と言っても名前の重さは変わらない、たとえペットだとしても。だから、名付けの大変さと自分の両親に感謝しながら、一生懸命名前を考える。このせいで勉強ができない、と言い訳ができないだろうか、と一人で笑っている。

## 「“恕”の文字を心に刻んで」

2組 佐藤 千尋

私は昨年夏、須賀川市の釈迦堂川花火大会の翌日のごみ拾い活動に、一人で朝早く起きて参加しました。何か役に立つことがしたいという小さな思いがあって、この活動に参加することを決めました。ごみを拾う中で、缶の中に紙ごみが入っていたり、立ち入り禁止の場所にごみが投げ捨ててあったりなど、面倒くさい捨て方をしている人もいたということも痛感したけれど、そういう発見も含めて、早朝の街はいつもと違う感じがして楽しかったです。



まだ、将来何がしたいか定まっていなくても、勉強ばかりではなく、社会的な時間を過ごすことも大事だと改めて感じました。誰かの役に立つということにおいて、例えば困っている人を助けようということは小学生のころから言われていて、それはこれから生きる上でも忘れてはいけません。社会に出ていくにあたって、自らの体験を通して得たことを心に留めて、「恕」の文字を心に刻んで生活したいです。

